

甲南大学 総合研究所所報

甲南大学総合研究所

〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1

電話 (078) 435-2331 (ダイヤルイン)

第 59 回 総合研究所公開講演会

「自由・自治都市 堺の挑戦」

～世界にひとつだけの堺～

平成 26 年 12 月 6 日 (土)

講師 竹山 修身 氏
(堺市長)



竹山市長：

まず最初に歴史と伝統を誇る甲南大学総合研究所の公開講座にご招聘いただいたこと、本当に嬉しく思います。私は堺で生まれて堺で育ちました。只今 2 期目市長になって 5 年目の職務に就いているところでご

ざいます。私どものまち「堺」は、自由自治都市として栄えてまいりました。その堺が今どのような方向性を持って進んでいくのか、そういうお話しをさせていただきたいと思っております。

資料の表紙に書いておりますのは堺の木製灯台でございます。これは日本最古の木製灯台でございます。そして右上に「世界に一つだけの堺」というサブタイトルをつけております。私どもはオンリーワン、「世界に一つだけの堺」を目指しております。そういう意味で堺から世界へというのを私どもは合言葉にしております。そういう高い志で、私どもは子育て、ものづくり、そして、まちづくりをしていきたいと思っております。

次のページをめくっていただきたいと思えます。まず最初に何故私が市長を目指したのかをお話したいと思えます。初めに「念ずれば通ず」というサブタイトルを書いておりますけれど、略歴にもございます通り、私は平成元年に大阪府から派遣されて南河内郡美原町に助役で出向しました。大阪府の仕事は広域事務や府内市町村の連絡調整事務や補完事務をやっています。市町村の仕事は、地域の人々の暮らしや生活に密着した事務を担っています。この経験をさせていただいたことで、私は市町村が担う基礎自治体の仕事は非常に大事な仕事だなと思えました。大阪府の仕事も大事ですけど、基礎自治体の仕事も大事だと思ったところでございます。

いつか機会があれば市長として仕事をしたいと胸に抱いておりました。そして平成 13 年の初春の頃、堺の財界人の方が私の元に来られました。副知事を通して来られて「市長選挙に出てくれへんか」と言われました。私のその思いと要請が一致してましたので、当時私は、商工振興室長という商業や工業やサービスの振興する次長級の室長でしたが、私のような 52 歳位の若輩者でも、そう思ってくれてる人がいる。それは非常に嬉しいなと思って、私は前向きに考えました。しかし、その 4 月以降接触がなくなり、話はなくなりました。そして、私の大阪府の先輩で、美原町と堺の助役をした方が市長選挙に出て市長になりました。その人は堺出身ではなかったんです。そういう悔しい思いがあって、そして私が 59 歳になった時に、私はそれまでに部長級の職を何度か経験して政策企画部長という仕事を 4 月からやりました。その時にそろそろ定年退職になってきて自分の将来について考えたんですね。その時にあの 8 年前の悔しさをなんとかしたいという思いもありました。やっぱりこのまま定年退職するよりも、いっぺんチャレンジしたいな

と思えました。59 歳の時そう思って、8 年前に相談した人、色々アドバイスしてくれた人に相談をしたら新聞記者に嗅ぎつけられました。6 月 12 日、忘れもしません、朝一番で某紙の新聞記者が朝がけに来ました。その人は府庁詰めの記者でありましたから昔から知ってました。その人が朝に来て「あんた堺市長選挙に出ようと思ってるやろう。色々動いてるやろう」と言われました。そして「これを記事にするから、その気があるんやったら記事になった方がいいやろ」と言われましたけど、ちょっと待ってくれと。まだ橋下知事

(当時)にも言ってなかったんで、その日の昼に知事に報告したら、橋下知事(当時)はおもしろいやないかと。応援するよと言ってくれました。知事に背中を押された私は「市長選に出馬意向あり」と月曜日の夕刊に出ました。そういう形で新聞記事に出たら市長選に出ざるを得ないようになって出来るだけ早く辞めようと思ったんですけど、ちょうど臨時議会が開催されており、私は議会对応の中心だったもので、辞められなかったんです。臨時議会の最終日 7 月 3 日に辞めました。議会が終わったその後すぐ知事に辞令をもらって、その辞令を持って堺市役所の前、冷たい雨の降る中で街頭演説させてもらいました。その時冷たい雨に打たれて、聞いてくれる人もパラパラで何とさみしいことだなと思えました。そしたら私の友達が「おまえ演説下手やな」と言いました。そりゃそうですね。今まで役人だったので公衆の面前で話すことなんてなかったんですから。そう言われて 7 月 4 日に自分の家の隣の事務所で事務所開きをしたんですけど、私について来てくれたのは、私の元の部下 1 人、それと私の末の娘。ミキハウスという会社に勤めてたんですけど、そこの会社の社長が面白い人で、お前の父親そんなん出るんやったら、休職しろと言って強制的に休職させられて 3 人で選挙事務始めたんです。3 人で選挙事務を始めたら、色んな人が事務所に来てくれるんですが、みんな笑うんです。ほんとにやる気あるんかと。選挙のプロですからね、みんな府議会議員出身者とか市議会議員出身者とか来て、遊んでるんとかと笑われたんですけど。まあ笑われながらも見よう見まねで色んな人の話を聞いて選挙準備活動をしていました。そして変わったなと思ったのが 8 月の衆議院選挙で民主党が大勝した時です。その時何か潮目が変わったと私は思いました。そして、それでも相手

は自民・公明・民主・社民党まで推薦する現職でしたので、向こうは絶対負けるわけないと思っていたんですね。そしたら独特の嗅覚を持つ橋下知事(当時)が、それから堺に入ってくれたんです。そして堺をウワーッと変えんとあかんと、そんなみんな政党相乗りの市長でやっていいんかと。私が一番言ったのは大小路筋に425億円も使ってLRTという電車を走らせていいんかと。それはいかにも無駄じゃないかと。大小路筋というのは私が育って学校に通った歩く道なんです。そんなところに鉄道走らせてどうするんだと。私は行革室長もやりましたので、費用対効果なんて何も考えてないのではということも踏まえて戦いました。その結果、13万6千票いただいて当選したんです。相手に5万票近い差をつけて勝ちました。これが世に言う「堺ショック」と新聞は見出しをつけました。すべての政党が推薦してるのに、橋下徹が推す竹山修身に現職が負けたということで、それが「堺ショック」と言われて、これが橋下不敗神話の始まりなんです。そして橋下知事(当時)はその時の思いをこの「体制維新-大阪都」という本の中で書いてます。橋下知事(当時)はその時、大阪府庁舎をWTCに移転させたかったんです。そしてそれに反対する各政党を何とか説得しようと思って自分の身近な6人と共にそういう政治闘争をしようと思っていたところに市長選挙があったから竹山さんを応援することで自分の実力をみたいということを考えて参戦したと、この本の90頁に書いてます。そして勝ったもんやから、これは政治闘争できるやないかということで、現にWTCを買ってしまったんですね。それで次の年に大阪都構想を掲げて、4月に大阪維新の会という政党まで立ち上げたんです。それ以降の選挙に全戦全勝だったんです。

そして3年前の11月、大阪ダブル選挙が行われ、橋下さんが大阪市長選に当選しました。大阪は全て維新の色一色に塗りつぶされてしまった。そしてその中で、都構想をやるための協議会を作るから堺も入れと言われ、私は、悩みました。盟友やった松井さんや橋下さんに誘われて、都構想に入れと言われました。私は二重行政を解消するという都構想の理念を是としています。

だけど、堺に二重行政はないと私は常に言うてます。大阪市と大阪府に二重行政はあっても、堺には二重行政はないのに、都構想へ入るということは、堺にとっ

て分割されることもありうる話ですから、都構想は百害あって一利ないということを、橋下、松井、竹山会談ではっきり言いました。そしたら、松井さんは、来年の選挙には対抗馬として刺客を出すとしました。

私は、大阪維新の会がピークの時に、堺が都構想に加わらないと、堺は堺でこれからも頑張ると宣言して、私と大阪維新の会との戦いが、そこから始まったんです。

そして、去年(2013)の9月堺市長選挙が行われて、私たちは、「堺はひとつ、堺をなくすな」というテーマで、市長選に挑みました。

相手は、西林堺市議会議員をたてて選挙をしましたけれど、私達は、堺を思う市民の集まりを結集して、戦いました。自民党が支持してくれました。民主党が推薦してくれました。そして公明党は、自主投票でしたけど、実質的にこっちにきてくれました。そして共産党は、推薦したいと言いましたけれど、お断りしました。それでもついてくれると言ってくれました。そういう形で戦いまして、198,431票いただいて相手を58,000票離して、2期目を今、迎えているところです。この投票率は、50.69%、堺市長選史上初の高い投票率でした。維新の会は、いっぱい堺に人を集めてきました。私どももユーチューブで知りましたが、ボランティアで千葉県の市議会議員が来てくれたりと、堺が維新と反維新の戦いの場になったんですね。堺という一基礎自治体で、そうなったんですね。

そして、私どもは自由・自治という堺の歴史や伝統をしっかりと守っていくことを掲げました。川淵三郎さんは、私の高校の先輩ですけど石原慎太郎さんと友達なんです。石原さんは橋下さんに近い人ですが、川淵さんは「堺なくしたらあかん」と、橋下さんの言っていることはおかしいと共感していただいて私の隣にきてくれて戦ってくれました。

次に、もうひとつの堺ショック、第二次堺ショックが起きました。

それは、大阪府が49%出資している第3セクターで、泉北高速鉄道を運営している大阪府都市開発株式会社(OTK)の株式売却。松井知事は、この株式を一番売却価格が高い提案をした海外の投資ファンドに売ることを決めました。この株式売却に際して市民の皆様から、泉北高速鉄道の利便性を高めてほしい、特に高い運賃は必ず値下げして欲しいとの声が挙がっ

ていましたが、海外の投資ファンドが提案した値下げ額はたったの 10 円でした。市民の皆様はもちろん、この額では泉北の皆さまの想いを叶えられていないと私も市議会議員も、みんな怒りました。

泉北高速鉄道は、泉北沿線の方々の利用によって支えられているのに、10 円の値下げではダメだと思いました。

また、以前西武鉄道が海外の投資ファンドに買収される話がありましたが、転売目的の投資ファンドに鉄道の安全な運行を任せられるのかと西武が当時反対しました。今回も同じで、本当に安全運行ができるのかと疑問に思いました。

そこで私は、市民の皆さまの想いを大阪府に伝えるべきと考え、ロビー活動を開始し、松井知事にも直接お会いしました。

その場で私は、市民の想いは 10 円の運賃値下げでは叶えられない、また、安全安心に市民が利用できるのが鉄道の第一の使命であると松井知事に訴えました。

そのような活動が実を結び、府議会では、本来であれば絶対多数を持っている維新の会により可決されるはずの当議案が維新の会 4 人の議員の反対もあり 51 対 53 で否決されたんです。

採決に関して、新聞では可決を予測する記事も掲載されていただけに、その結果を聞いて大変感慨深いものがありました。

これをわたしは、第二次堺ショックと呼んでいます。

維新の会の終わりの始まりが、堺市長選挙で、特に大きなできごとは、泉北高速鉄道の株式売却議案の否決だったんです。その後南海電鉄に、80 円値下げで随意契約で売却することが決定しました。値下げは、来年 (2015) の 3 月ないし 4 月にやると決まっております。私は泉北高速鉄道の値下げ拡大を何度も念じました。念じて念じて念じて通じたんです。想いが通じるためには、私自身の行動がありました。いろんな人に根回ししたり、いろんな根拠を示してアピールしたり、そして最後はロビー活動までして逆転させました。

私は、すべてにおいてポジティブシンキングで念じたらいけるものと考えてます。念じたら行動は伴うと、これは私の人生訓になっています。

何が私をここまでに駆り立てるかといいますと私は堺の歴史だと思っています。堺は古代からまちが形

成されてたんです。

それは、奈良や京都より古いまちだったんです。4 世紀から 6 世紀にかけて巨大古墳が作られました。百舌鳥古墳群という巨大古墳が作られました。仁徳天皇陵を作ったのは、2,000 人の方が 15 年 8 ヶ月かけて作ったと大林組は試算しています。2,000 人の人が、15 年 8 ヶ月かかってということは、ものすごい集落ができていたんです。堺は古くからまちがあって中世・近世には、ここの南蛮屏風でもおわかりになるように、海外との交易をする都市でございました。

そして、36 名の会合衆という商人の代表がまちを治めていました。自治都市として繁栄して、利休さんも輩出した都市でございます。

16 世紀末に、オリテウスという人が世界地図を描きました。その中に、日本が描かれているんですけど、オリテウスの世界地図の中には、日本の都市は二つしか書かれてない。ひとつは、都 (みやこ) とかかれています。京都です。もう一つは、エスエーシーエーワイ (sacay) 堺です。オリテウスの地図にも、堺は、16 世紀末から載っていたんです。それぐらい、世界にも冠たるまちだったという自負があります。

そして、近代は大浜・浜寺という白い砂と青い松の、白砂青松のリゾート地だったんです。西洋館があって少女歌劇団があって、一流料亭があったと聞いてます。今、少女歌劇団を 85 年ぶりに復活させようと思って、「堺少女歌劇団」を作りました。吉本興業株式会社の大崎社長が堺の人で、その人と一緒に作りました。みんな喜んでます。商店街の人なんかが中心になって、それを作ってくれています。

私たちに宿る DNA。私はこれを子供たちに言ってます。堺の人は、みんな稀有な遺伝子を持っている、世にも珍しい遺伝子を持っている。南蛮貿易の遺伝子、世界に飛び出し挑戦する遺伝子をもっている。これは、中世の堺の人は、東南アジアのみならず、インドやヨーロッパまで行った。こういう海洋都市の歴史を持っている。そしてもうひとつは、ものづくりの遺伝子を持っている。古墳造営の時から受けつぐものづくりの DNA、古墳の中には、銅器や鉄器や須恵器というのがある。それは、海外の技術を伝承し、国内の原材料を使って作っているのです。久野雄一郎さんという三宝伸銅工業という会社の社長が、それを調べました。これは、国内産のもので作ったというそんな DNA をもつ

ており、今の包丁や鋏や自転車になった。

そしてもう一つは、自由の遺伝子を持っている。

千利休は、豊臣秀吉の理不尽な要求に、従わず自刃しました。それは、茶の心というものを大事にしたからこそであり、そしてそこに今の三千家があると私は思っています。

与謝野晶子さんは、ああいう時代の中にあっても女性の自立と、反戦を訴えた歌を書いていた。これはやっぱり堺の自由の魂だとわたしは思っています。

未来を切り拓いてきたのは、こうした堺の精神として3つのDNAがあるよということを、機会のあるごとに言っています。

私の高校の後輩に、中谷彰宏という作家でタレントがいるんですけど、彼がこれを言ってくれました。彼の承諾を得て、今使ってますけど3つのDNAは中谷君との合作です。

近代に入って、堺は明治初年には、堺県だったんです。広域自治体、それが河内も含んだ大きな広域自治体で、大阪府よりも大きかった。そして明治14年には、奈良県も併合したんです。大和まで併合した大広域自治体だったんです。そして、明治の19年には、大和は分離して奈良県になりました。奈良県史には、このことが書いてあるんです。堺に併合されてえらい目にあつたと、堺の西本願寺に役所があつたんです。あそこまで届出書もっていかなあかんと、そんなん、桜井や吉野から堺まで届出書もっていかなあかんとえらい目にあつたと奈良県史に書いてあります。

そして、明治の22年に、市政が敷かれました。全国的に31が市になったんですけれども、堺は市として、スタートしました。その時の市というのは、皆さん方はご存じないかもしれませんが、堺には、土居川という川があります。土居川の周りだけで市だったんです。3万か4万人ぐらいの市だった。そしてその近くの向井村や、三宝村も徐々に併合して大きくなっていった、私の住んでる黒土町というのは、昔は金岡村だったんです。昭和13年9月1日に、南河内郡金岡村と堺市は合併しました。その時、うちの祖父が、村議会議員をしてました。村議会議員だった時に、河盛さんという当時の市長が来てくれて、ずっと議論して、お互いに市と村が合併することはいいのかという、熟議して堺に入る事を決めたと祖父から聞きました。合併というのは地域の連帯性や連帯感を、一緒にするも

のなんです。強制合併みたいなのはないんです。地域の方々は、堺と一緒にするという思いを持って合併する。そういう昭和13年9月1日の金岡村の合併から合併を繰り返して、最後は、政令指定都市になるために、南河内郡美原町と平成17年2月1日に合併して、今の姿になったんです。

私がなぜこんなこと言うかということ、都構想で大阪市を5つや6つに分割すると言ってますけど、もってのほかだと思ってるからです。地域の連帯感やつながりを、大事にして大阪市は大きくなってきたんです。堺も大きくなってきたのに、最適人口が30万から50万やからここここはひっつけて、ここはひっつけない。そういうことではなく、地域の連帯感や、人と人との心の連帯感みたいものが大事になって、町や市が構成されている。都構想はそういう人の心をズタズタにするんやと私は思ってます。

それともうひとつ言いたいのは、河盛安之介さんは昭和の13年にも堺市長でしたけど、戦後も市長だった名市長なんですね。昭和の36年に河盛さんは、100万都市構想と言ったんです。100万都市構想で何かと言ったら、大和川より北の所と同じようなまちになると言ったんです。ということは、政令指定都市になると河盛市長（当時）はその時おっしゃったんです。

そして、45年かけて平成18年4月1日に政令指定都市になりました。そういう先人の熱い思いが、いろんな努力がわかっているのに、維新の会の議員は、「政令指定都市もうやめところ」と特別区になるんだと、よく言えたなど。市議会議員に聞くんですけどね。政令指定都市になるための熱い思いを無にして、45年の努力を無にして、また、堺北区や堺南区になるんですかということ言ってます。

そこで、政令市とはどういうものかについて説明させていただきます。

政令市というのは、国によって権限と財源が最大限に、確保された都市です。

中核市とどこが違うか、ひとつは、児童相談所が作れるんです。いじめ、不登校、虐待などの専門的な職種の人が相談に乗ってくれています。虐待でも私どもは、通報がきて、24時間以内に対応できる体制をとっています。虐待はやっぱり、早く対応しないとトラウマになって再び起こる可能性がある。そして、人の命が失われることがある。私どもは、通報があったらす

ぐ行って、大きな声で泣いてる子の原因について尋ねます。虐待でないケースも多々あります。しかし、10分の1や20分の1のケースで虐待がある時は、すぐその親から引き離す。そして、児童相談所の一時保護機関に入れる。適切な対応をして警察に届ける。このようにしっかりと対応できる施設は、政令市以外は設置できません。私達は、24時間ルールということをやっています。通報を受けてから24時間以内に処置する。厚労省と大阪府は48時間です。堺市は出来るだけ早く対応するというをやっています。

それともうひとつは、教員を独自採用することができる。

今まで教員は、大阪府で採用された教員が堺市内の学校で勤務していました。なかには、堺市勤務の辞令があったため、堺で働くという意識をもった教員はいます。

今は、堺が好きの人、堺の子供を教えたい人しか来ません。まだ堺が政令市になり教員の独自採用を実施してから10年ほどしか経っていませんから教員全体の数で独自採用の割合は30%から40%ほどです。将来80%~90%になったら、教員集団としてもすごいパワーを持つようになると思います。教員の独自採用権というのは、大事です。

もう一つ欲しいのは、給与負担権です。それがまだ移譲されていません。

給与負担権をもらえれば、堺はこういう所に教員を重点配分するということができます。これを加配というんですけど、加配するということが独自にできるようになればいいと思います。これも近い将来できると思います。

それともうひとつは、国道や府道の管理が堺だけでできるようになります。

ただ26号線とか2桁国道というのは、堺市の管理とは違います。309とか310号線という国道は、堺市が管理しています。そして、中央環状線という府道は、堺市が管理しています。そして、当然、堺市道も管理しています。そうすると、シームレスに管理できます。ここは、府道やからここだけは市ができないのではなくて、府道と市道が、隣接している所まで全部管理できるんです。管理の仕様も様式も一緒の管理方法でできます。

それと、もう一つ大きいのは、堺市が道路を管理し

ているので、堺の業者に仕事を任せられることができる。堺の仕事は堺の業者でもらうことは基本だと思います。

それともうひとつは、都市計画決定を独自で決めることができるようになります。市街化調整区域と市街化区域の線引きというのは、今まで大阪府が決めていました。これが、今は、堺市で出来ます。

だから、ここは家を建てても良いところ、ここは田園や農地を残す所、緑を残す所の区域は、私達が今できることになっています。今までは大阪府に依頼してやってもらってました。寧ろ今は、市街化区域の中で、老朽化された住宅をいかにリニューアルしていくかという大事なんですけど、市街化調整区域を市街化区域に変更するよりも、市街化区域の中で、再開発をどうするかということが大きな課題となっています。

そういったことを、政令指定都市が独自権限でできます。

そしてもう一つは、区役所を設置することができる。区役所は単なる窓口じゃなくて、区役所に権限と財源をおろして、住民に身近な仕事は区役所でやってもらうということです。

そして、当然仕事に伴う財源も付与されます。政令市になるとプラスアルファで、宝くじの発行により財源が得られます。一般市には、発行できません。宝くじの収益金収入は毎年度20億円程度あります。宝くじなど政令市の財源を活用して、子ども医療費の助成の拡充をしました。堺の子どもは、どれだけ大きな病気にかかっても1回ワンコインで、最大でも500円玉2枚で、1か月はそれ以上かかりません。こういう風に、財源が確保されています。それが政令市のメリットです。

堺は、政令指定都市になる為に、そしてなっってから、行革努力を続けました。なぜかという、政令指定都市になるためには、総務省に認められないといけません。総務省の指定を得るには、給与や人員などで努力をしていると認められなかったら、政令市になれません。だからそれをしっかりやってきました。それは、前市長もやりました。そして私も、引き続いてやっています。そして、22年から25年の3カ年で50億2千万円の人件費削減、事務事業の見直しなど、23年度から25年度で155.4億円の行革効果額を出しました。そして、外郭団体の数を減らしました。

そして、人件費も職員には悪いですけども見直しさせていただいています。昔はラスパイレス指数全国1位のときもありましたが、今では政令指定都市の中で最も低いレベルになりました。

今年もすでに人事委員会勧告が出ています。この人事委員会勧告については、私は完全実施しようと思っています。私は、組合交渉にも出ています。平均3.1%職員給与カットさせてもらっています。これは、東日本大震災財源として国が7.8%のカットしたことに伴う、市町村への要請に基づき、本年度で終わりますけどやっています。そしてそのためには、市長の給与も自らカットしないと職員はついてきてくれません。20%の給与カットをやっています。そして、私は、交際費はなしです。東京に行って大事な人に会う時は、お土産は堺の和菓子であるけしもちを持っていきますけれどもそれは、自腹でやっています。そして、一切の交際費を使っていません。そして私が市長に就任してから市長の退職金制度は廃止しました。

堺市では人件費の適正化をやっているところです。そういった行革を実行していることもあり、堺市の財政は健全です。政令市トップクラスの、健全性を保持しているところでございます。

実質公債費比率5.2%、これは何かというと、借金払いにどれだけ使っているかということです。去年(2013)は4.9%。国の基準では、25%までならレッドカードは出さないという制度になってます。

将来負担比率は27.6%です。将来負担比率とは連結決算即ち市本体のみならず、外郭団体や水道会計など全部で借金額が、標準財政規模の400%までならいいとなっております。堺は27.6%です。

そういう意味で、埼玉、堺、相模原というのは、ここに位置しています。

そして千葉は、将来負担比率250%超えていますね。借金払いの18%ぐらいになってますね。千葉は、財政が厳しいです。横浜や広島や京都も今非常に財政状況が厳しいというのがこの表でわかっていただけだと思います。

そして、人口一人あたりの借金額で言いますと、大阪府は63万円、堺市は43万円。我々堺市民は、あわせて106万円の一人あたりの借金を赤ちゃんからお年寄りまでが抱えているといえます。

大阪市は、市民一人当たりだけでも、96万円でした。

大阪市は、借金が多いです。大阪市は将来負担比率は150%で実質公債費比率は、8%あたりですね。そういうデータを見ても、堺の財政は、現在、健全化基準を大幅にクリアしています。ムーディーズの格付けも良いです。そうすると、起債即ち借金するときの利率が低いんです。100億200億の起債の中で0.1%安かったら全然違います。1千万、2千万円違います。財政が健全なところは、貸す方も利率が安くなってきます。メリットはここにあります。

資料の前のページに戻ってください、ここです。実質公債比率25%でレッドカードですけど、大阪府は18%です。イエローカードなんです。借金する時は、国の許可が必要になります。18%ですから千葉と同じような感じですね。借金額が大阪府はかなり多い。借金が何で多くなったかという、バブルの時に国に勧められてどんどん投資したんです。

その借金が、今ボディブローのように効いてきてます。リゾート法だとかで施設を作ったものが、今、大きな負担になっています。

私は基本的な市政方針を堺市マスタープランで掲げています。子育てと歴史文化と匠の技、この3つを中心においています。

そして、東日本大震災でわかったように、災害に強いまち、地域のつながり、絆の強化、これを3つの挑戦プラスワンと言っています。

さらには、大阪都構想にはNOといたしましたので、区の権限と財源を強化して、区域の実情に応じた取り組みを行い、都市内分権をやっているところでございます。

本日の核心の部分ですけど、大阪都構想は何かとみなさん方に聞かれます。これやっぱり今日はお話したいなと思って来ました。

歴史的経過も加味しますと、大阪府と大阪市は、戦前から権限争いをしていました。大阪市は、財政豊かで強力だったんです。大阪府は、財政が良くなかったんです。いつもいわれてますけど、お饅頭のあんこの部分を大阪市にとられて。例えば、大阪市内の商店街のアーケードのテープカットに行っても、市議会議員と区長がテープカットして、府議会議員は、テープカットをさせてもらえないということをよく言われました。それぐらい大阪市は力が強かった。府にとっては、大阪市は目の上のたんこぶだったんです。

そして、大阪市は特別市になるといって、府から独立するといって一時特別市運動をやって、特別市が認められたんですけど、それは府県側の大きな反対で、一度も実施されることなく政令指定都市制度になりました。その結果、棲み分けをするということで、大阪府は、大阪市以外の所の大規模開発に取り組むという取り決めができたんですけども、その二重行政という大阪府も作るし、大阪市も作るというのは、たくさん事例があります。

例えば、WTC というビルを大阪市が作ったら、大阪府は、りんくうにりんくうゲートタワービルという同じ高さのビルを作っています。そして、来年はひとつになります、外郭団体の信用保証協会、大阪府も大阪市も作ってる。信用保証協会というのは、処遇は役人、給与は銀行。そういういいところのところです。私は、商工労働部長で、これをなんとかせなあかんと思ってたんですけど、今やっとなりました。

そして、人口減少化による水余り現象の中で、水道事業の一元化が必要です。大阪市は淀川から水を取っています。大阪府も淀川から水を取ってますけど、同じところで水を取ってるんです。守口市の庭窪というところで、隣り合わせで浄水場を持っている。そういう二重行政を放置する今の大阪府大阪市の現状だったのです。

だからその解消の為に、大阪新都構想というのが平成 16 年 10 月に作られました。この時、私は大阪府の行革室長です。成田頼明という横浜国立大学の名誉教授が座長だったんですけど、その人が最後は、大阪府と大阪市が調整するシステムを作りなさいと、広域連合も作りなさいということになりました。その年の中間論点整理案に大阪市を分割するというのがありましたけど、それを、都構想として平成 22 年 1 月に橋下府知事（当時）が提唱したんです。

そして、大阪維新の会は、これを大きな党の政策としてやったんです。その中身はどうかといたら、大阪府は新たな広域自治体として、政令市から移管された権限や財源をとって、大阪市や堺市は特別区に分割して、中核市程度の権限でサービス提供しますということにしました。強い大阪をつくるために、大阪都構想が必要と言われてはいますが、本当にそうなんですかね。私は、さっき言ったように人と人の連帯感、地域と地域の連帯感が、分割したらなくなるのではな

いかなと。

次のページ、都構想への疑問は先ほど述べさせて頂いたとおり、地域・住民の連帯感やわがまち意識を分断・解体することになること。そして、膨大な経費増があります。

例えば、資料の表を見て下さい。八尾市の人口は堺の 3 分の 1 規模（約 27 万人）です。八尾市の職員数 2,250 人を、3 倍にしたら 6,750 人ですが、堺の職員数は 5,484 人で、約 1,200 人も少ない。八尾市の議員は、現在 28 人。3 倍したら 84 人。堺の議員数（52 人）より 32 人多くなる。特別区に分けたら余計非効率になっていくのではないかと。職員を減らすと言っていますが、難しいのではないかと考えています。

初期経費・維持経費を考えてみたら、区役所をどこにおくのかということ、今でも解決できてない。区役所にお金がかかるのに、そういうことは議論されていない。そして、IT のランニングコストとかイニシャルコストとか全然考えられていません。

この辺りが、まったくわからないままスタートされようとしています。そして、一番大きいのは、これです。

東京都の例で言いますと、最近の法定協議会の資料を見ると、堺市は、1,300 億円、市民から税金をいただいているんです。そのうちの 23% の 305 億円は大阪府に移転します。そして堺市に残る財源は、38% の 500 億円しか残りません。あとは、調整する財源が 505 億円です。これは、財源が豊かなところとそうでないところに配分される財源です。そのため、必ずしも堺にくるかどうかわかりません。大阪都構想が実現すれば、堺の税金は堺市には 38% しか残りません。東京都は、これでうまいこといってると言ってますけど、東京都はうまいこといってません。特別区長はみんな怒ってるんです。東京都に税金をとられているが、本来は特別区の税金で特別区に移転すべきだと言っています。東京都は、普通交付税不交付団体で地方交付税ももらっていません。普通交付税不交付団体以外は、国から地方交付税をもらっているのに、その交付税をもらっていない東京が栄えてるから、大阪も都になれば栄えるやろと言ってますがこれはおかしい。

こういうことを言ったら、車を買う時に設計図なんか見ますかって言ってきます。設計図なんか見ないで

あなた車買うでしょう。だけど大阪都構想は設計図とは違いますね。車の一番大事なところです。車で言えばガソリン消費量って一番大きなところですよ。燃費のところ。燃費がこれだけ悪くなってるのに、そんな車を買いますかと。だけど、ここは絶対言わない。それで、4,000億円の経済効果がでると言っています。

では、どんな地方自治体の制度がいいかと言いますと、私が大事だと考えるのは、基礎自治体優先の原則です。市町村が一番権限や財源を持っていて、市町村にできないことを、府県がする、府県ができないことを国がする。これを補完性の原理といいます。これを貫いていくべきだと思います。

この国の形を考えるのは、私達の仕事であり市民の皆さんの仕事です。

人口減少社会の中で、今後、消滅するまちがでできます。どのような国の形成をしていけばいいのか、まちづくりをすすめていくのかは、大事なことです。東京一極集中を是正しなければなりません。もはや、中央集権で、この国は成り立たないと思います。

そして、市町村ができない地域のことは、地域にお金を渡して地域に自主的にやってもらう。これが自治の原則であると思っています。

ヨーロッパは、既にこの制度ができてます。EUを作った際のヨーロッパ地方自治憲章に、まさに地域のことは地域がやって地域でできないことを、行政がやって、最後にEUでやりましょうということが謳われています。そういう形で、ヨーロッパ地方自治憲章の理念みたいなものをこれから私達も活かしていくべきだと思います。

そして、二代表制を活性化しなければならないと思います。首長にあまりにも権限が強化されたら、二代表制が機能しないところが出てくると思います。

二代表制は不可欠な制度です。議会もしっかりしなければならないと思います。

そして、市民がしっかりと選択権を行使することが、必要です。

堺市は今、議会開会中ですけども、私は常に緊張感を持って議会に臨んでいます。そして、どんな質問にも答えられるように事前に勉強しています。議会と我々首長とは、緊張関係がないといけません。

また、私が市長に就任してから、議会のインターネット中継を始めました。こうした取組もあって緊張感も生まれてきます。議会と我々が真剣に議論することから、地域のまちづくりが進んでいくと思います。

これまで一度に質問をして、後でまとめて答弁するというやり方でしたが、これではどの質問に対する答弁なのか分かりません。そのため、これを改めて一問一答の方法に変えました。1点改善したいのが反問権がないことです。私達は議員に対して議員の考えを聞くことができません。ソクラテスはまさに、そういう対話するところから議論が成り立つと言っています。市長に反問権を付与してほしいと言っています。三重県議会ではすでに制度化されています。もっと緊張関係をもって議会をやりたいと思っています。

そして、少子高齢化社会における基礎自治体の役割を充実させるため、仕事と財源をもっと基礎自治体に移譲して欲しいと思います。そして使い道をもっと透明化しないといけないと思います。市民参加をどう促すかということが、これからの課題です。そして、市民が市政に参加する。やる気をおこさせる仕組みをつくるのが、我々の責任だと思います。参加・協働がなければ、市政は前に進んでいけないと思います。

そして、地域でビジネスを興していくことが、大事だと思います。地域で障がいを持ってる人や高齢の方や、女性がビジネスを興せるようにソーシャルビジネス・コミュニティビジネスを興せるようなまちづくりをしていかなければならないと思っています。

最後に、堺市にふさわしい都市制度ですけど私はこのようにします。

堺は、住民に優しく足腰の強い基礎自治体をめざします。住民に身近な、子育てや健康や医療や福祉、教育の権限をもっと堺市に移譲してもらえるように府や国に働きかけていきたいと思っています。

そしたら今一番我々の問題は何かというと、生活保護です。生活保護受給者がどんどん増えています。高齢社会なので仕方のない部分もあるとは思いますが、本当に働きたいのに職がないという方がおられます。だから、生活保護の窓口の隣りにハローワークを置く。仕事の斡旋をすることによって、生活保護から脱却していく。働くことは、誇りなんだとそういう誇りを感じてもらうような、市のシステムと市民のマインドを変えていくことが大事だと私は思います。

そして、住民自治・住民参加の仕組みを充実させていきます。

校区まちづくり協議会というところで、校区でユニークな事業をやってくださいということで100万円お渡ししました。100万円お渡ししましたが、事前にチェックします。飲み食いは絶対あかん、そして、単に備品購入になるものはだめです。地域の子供を育てるとかお年寄りをどうするかというような、今後に繋がるような事業をやってくださいということで、それぞれ考えてくれています。

そして、今各区でそれぞれの事業をやってもらうような区民評議会というのを作る制度設計をやっていきます。そして今、まさに区教育・健全育成会議ということで、地域の教育委員会のようなものを7つの区に作ろうと思っています。教育委員会をつくるのではありません。地域で子供を育てる。いじめ・不登校といったものを地域で解決していく、しっかりと子供を育てるための議論する場をつくろうと思っています。

そして、南大阪の中核的な役割を担いたいと思っています。

南大阪のキャップになろうとは、思っていません。連絡調整のキーステーションになりたいと思っています。観光や災害対応・高度救急医療のキーステーションに堺市になりたいと思っています。泉州は、関空ができていのに、まだ景気が回復していません。泉州は、いいものを持っているがまだまだそれを活用できていないと思います。これを堺が連携のキーステーションになって、南大阪・泉州をもっと繁栄させたいと思っています。

最後に、「地域のリーダーシップを考える」という、大きな題がついています。私は常々言っているのですが、市民目線で、現場主義で市政をやります。365日仕事をさせてくださいと言っています。

私の仕事については、堺市のホームページの「ようこそ市長室へ」という項目がありますので、ぜひ見ていただければ幸いです。

そして、地域や職員や議会との協働ということで、気持ちを一つにして市政を運営したいと思っています。人がやってくれるというのではなくて、自分がやるということ、地域のみなさん、職員のみなさんにもわかっていただきたいということで訴えています。

職員とも常に対話しています。

そして、市民の皆さんには、シビックプライドを持って欲しいと言っています。中世は、36人の会合衆がいました。堺の事は堺で決めていく。そういう気概を市民の皆さんに持って欲しい。そして、シティプロモーションを強化したいと思っています。発信しなければ誰もわかりません。堺のいいところを、もっと発信していく。百舌鳥古墳群の世界遺産登録に向けた活動をしている、与謝野晶子さんや利休さんのふるさどである、大浜少女歌劇団が85年ぶりに堺少女歌劇団で復活したなど、そういうことを発信することから始めなければならないと考えています。

以前に、埼玉大学経済学部で講義に行ったときに、仁徳天皇陵古墳のことを知っているけど、堺にあることは知らないと言われました。

私は、愕然としましたけれども、もっと関東・東京で発信しないといけないと思いました。

そういう形で、堺はこれからも皆さん方に堺をもっと知っていただくために発信していきますし、小さいけれど、きらりと光るような世界都市を目指していきたいと思います。ご支援よろしくお願い致します。本日は、ありがとうございました。

<以上は、2014年12月6日（土）甲南大学522講義室において開催された講演に基づく>